

沖縄県 NPO 法人より遺品数百点

▷▷▷ 近くデジタル化 ◁◁◁

連携して 遺族に返還を

第二次世界大戦で米兵が持ち帰った旧日本兵の遺品が沖縄県のNPO法人(琉米歴史研究会喜舎場静夫理事長)より当会に託され、当会で遺族の身元を調査し返還することとなった。

これは、当会役員が昨年訪沖した際に同研究会の情報を聞き、当会に託して頂けないか申入れを行っていたところ、通じ

るものがあり、貴重な遺品を託されることになったのである。

二月十二日玉城村の同研究会事務所へ引渡し式を行い、今後とも連携して遺品の返還運動に取り組むことになった。遺品は血染めの日章旗やアルパム印鑑、手帳など数百点ある。

アメリカにたいバイアを持つ同研究会が数十年かけてアメリカより託されたものばかりである。同研究会の喜舎場理事長は、多くの遺品がアメリカから返還され、これまで遺族に返還しながら国や県にも協力を依頼してきたが良い返事がなく、最近返還作業が滞っていた。これを機会に再開し当会と連携して返還運動を行うことをお約束頂



NPO 法人 琉米歴史研究会との引渡し式 2月12日 (沖縄)



NPO 法人 琉米歴史研究会に展示してあった日章旗

インターネットで 世界に呼びかけ

当会としては、これら一〇〇万を超える遺品の遺品を各方面に調査依頼を行うとともに、デジタル化作業にとりかかった。

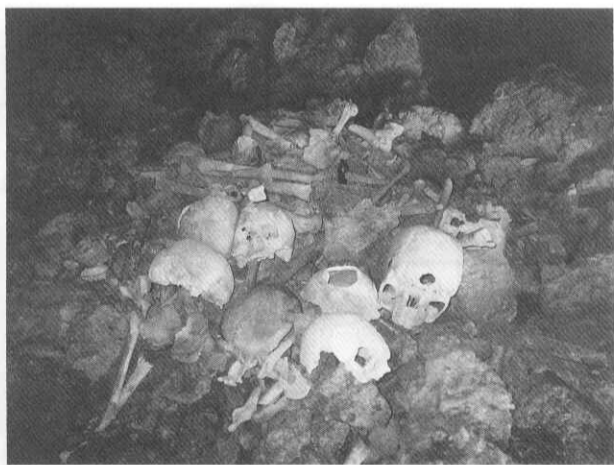
世界各地には、戦後五十七年を過ぎた今日も、

一〇〇万を超える遺品が放置されている。このことは、これまで紹介してきたが、多くの遺品についても同様である。三月中には新しいホームページで、遺骨の情報を

収集と遺品収集の呼びかけ(和文・英文)を世界に発信したい。

多くの遺骨と遺品が返還され遺族の元へ帰ることを願っている。

遺骨の 復元化も



復元化される日も近くなった遺骨

一昨年フィリピン・サマール島の無人島で発見した遺骨の鑑定に東京歯科大学橋本先生を訪問した。先生は北朝鮮に拉致された日本人の遺骨として返ってきた北朝鮮の嘘を見破った遺骨鑑定士の権威である。

残念ながら、無人島の

遺骨は旧日本兵のもではないという結果であった。しかし頭蓋骨があれば復元が出来、本人の遺影と照合すればかなりの確率で確認でき、協力は惜しまないとの事であった。

日本政府は来年度、DNA鑑定による戦没者の身元確認の予算化をしているが、DNA鑑定では出来ない新しい身元確認の方法があることがわかった。

早速沖縄で遺品と遺骨がありながら、十年近く放置されたままになっている、沖縄奉賛会の遺骨についての鑑定を厚生労働省に申し入れた。



インターネットで遺族さがしを行う遺品

御寄附御礼

これまでの当会の活動に左記の方々より寄附を頂きましたので御紹介しお礼申し上げます。

(敬称略)

- ・津留崎 恂 百万円
- ・久留米運送労働組合 百万円
- ・赤瀬 悦朗 五万円
- ・小川 敏之 三万円
- ・大竹 勝美 二万円
- ・大橋 久 二万円
- ・永田 勝美 一万円
- ・中西 克巳 一万円
- ・土手本武義 一万円
- ・清藤久美子 一万円
- ・(株)フェロー
- ・二宮 文夫 一万円
- ・高橋 睦子 一万円
- ・高田 俊秀 七千円
- ・尾林健太郎 七千円
- ・中 愉美子 五千円
- ・押岡 芳一 二千円
- ・三野 守雄 二千円
- ・黒江 保正 二千円

フィリピン慰霊と 平和の旅

恒例のフィリピン・レイテ島慰霊の旅まであと三ヶ月余りとなりました。今年も六月末から七月初めの予定(約一週間)で行います。

参加費は十五万円(税別)を予定しております。参加を希望される方はそろそろ体調を整えておいて下されば幸いです。今年も八十代の坂木茂太郎さん(僧侶)が参加し各地で読経し慰霊します。

六十年前に多くの若者が国の犠牲になった各地で慰霊を続ける事が、世界の平和が続く旅になることを願っています。